

グローバル・スタディーズ 授業事例

| | | |
|----|--------------------------|--|
| 1 | 公開授業実施日時 | 2017年7月13日（木）9:45～10:30 |
| 2 | 場所 | 京都教育大学附属桃山小学校 音楽室 |
| 3 | 対象 | 1年2組（小学校1年生） 34名 |
| 4 | 授業者 | 響尾真希 |
| 5 | 島名 | グローバル・イシュー |
| 6 | 単元名 | 祇園祭の音を感じてわらべうたを歌おう |
| 7 | 関連する教科・領域 | 音楽科 |
| 8 | 単元の目標・ねらい | わらべうたの学習を通して、多文化理解の基盤（出発点）となる、自国の文化理解や自国の文化を尊重する態度を育てる。 |
| 9 | グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい | 自国の文化を体験したり、異文化の人と関わりあったりする中で、文化や言語について興味を持つ ・伝統文化を実践することに関心を持つ。 |
| 10 | 単元の評価規準【教科・領域として】 | ・祇園囃子の鉦の音色に関心をもち、意欲的に歌っている。（音楽への関心・意欲・態度） ・祇園囃子の鉦の音色について知覚し、それが生み出す特質を感受している。（音楽表現の創意工夫） ・祇園囃子の鉦の音色を意識し歌を歌っている。（音楽表現の技能） |
| 11 | 単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】 | 郷土の音楽や伝統・文化に関心をもち、意欲的に活動に参加し、わらべうたで遊んだり歌を歌ったりしている。 祇園祭の画像や映像を見たり祇園囃子を聴きいたりし、気づいたことや感じたことについて自分なりに考えをもつことができる。 |
| 12 | 単元計画 | 第1時 《こんこんちきちんと》を歌いながら遊び、祇園祭の映像や写真を見て雰囲気を感じ取る。 第2時 祇園囃子の鉦の音色について知覚・感受し、鉦の音色を意識して歌う。（本時） |
| 13 | 本時の目標 | 鉦の音色を知覚・感受し、歌と鉦の音色の重なりを意識してわらべうたを歌う。 |
| 14 | 本時の展開 | 《別紙指導案を参照》 |

| | |
|-----------------------|--|
| 15 グローバル・スタディーズとしての特徴 | <p>音楽科では、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導の充実が図られている。また、自らの国や郷土の伝統・文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることで、グローバル化社会の中で、自己とは異なる文化や歴史に敬意を払い、他国を尊重する態度を育てができる。</p> <p>低学年では、まず、我が国の文化に関心をもち、それらに親しむためにわらべうたの学習を行う。また、本校では、郷土の音楽を大切に指導していることから、今回の授業では、祇園祭のお囃子に関わる京のわらべうた『こんこんちきちん』を教材として取り上げる。</p> |
| 16 授業者から一言 | <p>低学年の段階では、日本の伝統・文化に触れる経験は浅く、それらについて意識している子どもも少ない。わらべうたも、遊びのひとつとして捉えている。しかし、休み時間などに歌を口ずさんだり、「また歌いたい」と言っていたりする様子から、日本の伝統音楽が子どもたちの身近なものになってきていると感じている。今回のように、わらべうたで遊んだり歌ったり、日本の伝統音楽に親しむ経験を通して、「日本にはこんな伝統・文化がある」と他国に発信したり、異文化交流を図ったり、文化の違いや多様な文化を認め合えるグローバルな人材の育成につなげていきた</p> |

グローバル人材育成プログラム授業実践指導案

指導者 韶尾真希

研究主題

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える子の育成

低学年におけるめざす子ども像

自国の文化を体験したり、異文化の人と関わりあったりする中で、文化や言語について興味を持つ

1. 教科名 音楽
2. 授業テーマ 多文化共生
3. プログラム名 祇園祭の音を感じてわらべうたを歌おう
4. プログラムのねらい

わらべうたの学習を通して、多文化理解の基盤（出発点）となる、自国の文化理解や自国の文化を尊重する態度を育てる。

5. 教材とグローバル人材育成の接点

音楽科では、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導の充実が図られている。また、自らの国や郷土の伝統・文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることで、グローバル化社会の中で、自国とは異なる文化や歴史に敬意を払い、他国を尊重する態度を育てることができる。そして、国際社会に生きる日本人としての自覚をもち、文化や考え方の多様性を理解し、多様な人々と協働していくことができるようになると考える。

本校では、祇園祭を核として郷土の音楽のカリキュラムを開発し、実践している。低学年ではわらべうたを通して、郷土の文化である祇園祭に親しみをもつ。中学年では祇園祭や全国各地のお祭りを調べ交流する学習を通して、祭りの文化的背景や音楽との関わりについて学ぶ。高学年は祇園囃子を自分で演奏したり鑑賞したりする学習を通して、郷土の音楽への親しみをもつことをねらいとしている。さらに、はやしことばアンサンブルや祇園囃子の音楽づくりの学習では、その伝統を再現するだけにとどまらず、新たに自分たちの音楽を創り出す。このように、郷土の音楽をさまざまな視点から教材化し、実践を重ねていくことによって、子どもたちがより郷土の音楽を身近な自分の音楽として捉えられるようになるだろう。そして、こうした経験をもとに他国の音楽文化に関心をもち、自国と他国の音楽を比較しその違いや共通点に目を向けたり、異文化交流を図ったりすることで、子どもたちの視野や考え方方が広がり、多文化理解へつながると考える。

低学年では、まず、我が国の文化に関心をもち、それらに親しむためにわらべうたの学習を行う。わらべうたは、「子どもたちが遊びなどの生活の中で口伝えに歌い継ぎ作り変えては歌い継いできた歌である」（「音楽大辞典」平凡社）と定義され、わらべうたが子どもの文化そのものであり、もっとも基本的な日本音楽の特徴をもつものである。また、本校では、郷土の音楽を大切に指導していることから、子どもにとって郷土の音楽である京のわらべうたを教材として取り上げるようにしている。

今回の授業では、祇園祭のお囃子に関わるわらべうた『こんこんちきちゃん』の遊びから、歌詞の「こんこんちきちゃん」は何の音かを考え、祇園囃子を聴き、お祭りの画像を見たりお囃子を聴いたりしながら、お祭りの雰囲気を味わい、歌唱表現に生かすことを目指す。

6. 指導計画（全2時間）

第1時 《こんこんちきちんと》を歌いながら遊び、祇園祭の映像や写真を見て雰囲気を感じ取る。

第2時 祇園囃子の鉦の音色について知覚・感受し、鉦の音色を意識して歌う。（本時）

7. 本時について

・日時 平成27年7月13日（木曜日） 第2校時（9：45～10：30）

・学年・組 第1学年2組 34名

・場所 附属桃山小学校 音楽室

・本時の目標

鉦の音色を知覚・感受し、歌と鉦の音色の重なりを意識してわらべうたを歌う。

・本時の展開

| 学習の内容と活動 | 指導者上の留意点 |
|--|---|
| 1. 《こんこんちきちんと》のわらべうたを歌って遊ぶ。 | ●わらべうた遊びを十分に経験するようする。 ●「こんこんちきちんと」が鉦の音であることに注目するよう投げかける。 |
| 2. わらべうたの歌詞に注目し、何の歌かをかんがえる。 | ●児童が鉦の音色に注目できるようにするために、電子黒板で画像を見せながらお囃子のCDを流す。 |
| 3. 祇園祭の画像を見たり、お囃子を聴いたりする。 | ●実際の鉦を実演する。 ●お祭りの画像を見て、どう思ったかを問いかける。 |
| 4. 鉦の音を聴きながら、もう一度遊ぶ。 | ●自然と鉦の重なりを感じられるように遊んでいる途中で、鉦の伴奏を入れていく。（子どもの歌に合わせて、この際は、小さい当たり鉦を使用する。） |
| 5. 鉦がないときとあるときの雰囲気の変化を感じ音色について知覚・感受する。 | ●鉦があるときとないときの変化を意識できるように、座りながら歌う。 |
| 6. 鉦が入ると、どういう雰囲気になったか交流する。 「鉦が入ると、本当にお祭りにいっているみたい。」「歌だけの時は、ただ遊んでいるみたい。」 | ●鉦があるときとないときの雰囲気の変化を交流できるようにする。 ●知覚と感受の言葉を意識できるように、知覚の言葉に下線を引く。 ●子どもの発言に合わせてもう一度歌ったりするなど、適宜発言を音楽に返していく。 |
| 7. 鉦の音色があるときの雰囲気を意識しながら歌う。 | ●鉦の音色を味わえるように、座りながら歌う。 |
| 8. 音色についてのアセスメントシートに答える。 | ●アセスメントシートを配布し、歌のみと鉦の伴奏を合わせた歌の比較聴取をする。 |

・評価

鉦の音色を知覚・感受し、歌と鉦の音色の重なりを意識してわらべうたを歌っている。